

今や男性の3人に2人、女性の2人に1人ががんになります。特に男性は50歳を過ぎてもから急激に発がんリスクが高まりますから、定年を迎えてこれから人生を楽しむという矢先に、この病気で命を落とす人が後を絶ちません。

働く世代の死因の半分以上、病死に限れば9割をがんが占めています。がんを増やす最大の原因は細胞の老化ですから、定年の延長はさらにこの割合を高めるはずで

す。そして、がんという病気はわずかな知識があるかどうかで運命が大きく分かれてしまう病気です。とりわけ、自身自身の発がんリスクを知っておくことが大事です。

例えば、胃がんの原因の98

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

肝臓がんの原因の8〜9割がB型またはC型の肝炎ウイルスで、保健所に行けば無料で検査が受けられます。子宮頸(けい)がんも、発症原因のほぼ100%が性交渉に伴うヒトパピローマウイルスの感染です。性経験のない女性にはほとんどリスクはないことになります。

乳がんの発症率を高めるの

わずかな知識で運命分かれる

%程度がピロリ菌です。胃の中でも生きられるこの細菌は、免疫力が完成していない乳幼児期に感染し、慢性の炎症を起すことで胃がんの原因となります。何らかの機会

に血液検査などでピロリ菌感染の有無を確かめておくことよいでしょう。なお、除菌をしても慢性胃炎の履歴は抹消できませんから、胃がんのリスクは残るといえます。

は女性ホルモンです。月経のある期間は乳がんのリスクが上がりやすから、出産経験がなく、生理が長く続く女性はリスクが高まります。こうした方は毎月の自己触診と、2

年に一度のマンモグラフィを欠かさないことが大切でしょう。

前回、O型以外の血液型の人には膵臓(すいぞう)がんのリスクが高まると書きましたが、血液型以上に膵臓がんの危険を高めるのが糖尿病です。糖尿病になると膵臓がんや肝臓がんはなんと2倍、がん全体でみて2割も増えます。糖尿病と診断されたらがん予備軍だと覚悟し、検査を心がけるべきだと思います。

喫煙や毎日3合以上の大量飲酒はがんを6割も増やします。リスクを知るところから、自らリスクを高めることになつてしましますから、くれぐれもご用心。

(東京大学病院准教授)